宮私幼PTAだより
第106号
発行者
宮私幼ＰＴＡ連合会
（会長　渡辺勝幸）
編集者
広報委員会
事務局
仙台市青葉区国分町三丁目6-12
佐正第二ビル６Ｆ
電話（022)263-7040番

会長就任にあたってのご挨拶

宮城県私立幼稚園ＰＴＡ連合会
会長　渡辺勝幸

このたび、佐々木幸士会長の後任として、宮城県私立幼稚園ＰＴＡ連合会会長に就任しました、渡辺勝幸と申します。これまで、平成二十七年に宮私幼ＰＴＡ役員に就任して以来、常任委員長、副会長を務めてまいりました。またこの間、多くの皆さまのお力をいただき、ともにＰＴＡ活動に取り組むことによって、保護者負担の軽減をはじめ、幼児教育の充実のための予算確保を実現してまいりました。今後とも引き続き、子どもたちのための活動に尽力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

この六月、宮城県議会で一般質問をする機会があり、宮城県と仙台市の連携、経済の活性化、安全安心な暮らしや医療福祉などについて議論をしましたが、そのなかで今回は、幼児教育についても取り上げました。今後わが国は、少子化の大きな波の中で、幼児教育について、いかに質を確保していくかということが大きなテーマとなってまいります。

この議会質問でも取り上げましたが、教育経済学を専門とする慶應義塾大学中室牧子教授のベストセラー『科学的根拠で子育て』という書籍について、ここでご紹介したいと思います。この本は、エビデンス（科学的根拠）をもとに、わが国の教育や子育て政策について書かれたもので、幼児教育の質についても数値化し議論をされています。本書によれば、日本の幼児教育の質は他国に比べ高く、また「質の高い保育所や幼稚園に通うと、小学校入学後の学力が高くなる」との指摘がなされています。それでは「質」とは何かといえば、意外なことですが、基礎学力を重視することではなく、子ども自身に考えさせる「関心・経験重視」の教育がよいという結果が出ているのだそうです。読み書きを教えることも大事ですが、「考えさせる」「自由に選ばせる」「経験を通して学ばせる」ことが、後の学力や非認知能力の向上に好影響を与えるという分析です。

文部科学省は、五歳児を対象とした大規模縦断調査を令和六年度から本格的に開始し、従来の小規模な調査とは異なる、全国規模での長期追跡を行うという点が、非常に注目すべき取り組みとされています。今後、こうしたエビデンスをもとにした政策判断のもと、幼児教育の質の確保が重要な課題となっていきます。

これまで私は、宮私幼ＰＴＡの活動を通して、県内各地の幼稚園の先生方と交流する機会を多くいただき、幼稚園の現場の声を多く聞いてまいりました。教育の分野は何が正解なのか、明確には出てきませんし、私自身も自分の子育てが正解だったのか、わからないのが率直なところです。しかしながら、一人のお子さんが大人になっていくためには、幼稚園の先生や園長先生、そして市町村や県、国、専門家の先生など多くの皆様の御尽力の積み重ねがあるということを、いままでのＰＴＡ活動を通して実感しています。自分が幼いころに大人がしてくれたように、宮私幼ＰＴＡの活動をすることによって、一人でも多くの子どもたちが健やかに過ごせるように、知恵を絞り、汗をかいてまいりたいと思います。

非力ではありますが、保護者の皆さま、先生方のお力をお借りして、これから会長職を精一杯努めてまいりたいと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。

全日私幼 ＰＴＡ総会報告

副会長　横澤行夫（お人形社第二(T)）

七月二十八日、猛暑日の東京駅に降りた瞬間、熱風を感じるほどの暑さの中、中央線で御茶ノ水駅で乗り換え、総武線で、市ケ谷で下車、会場の私学会館へ向かいました。会場は別世界の涼しさ、汗をぬぐい、東北地区の席で一息。

山本順三会長の挨拶があり、会長は、その中で、数年前に全国の私幼ＰＴＡの皆様に署名活動して幼児教育振興法の国会審議に入れないままになっていることをお詫びします。各党の理解を得て、審議に入れるよう努力したい旨の話があり、協議に入りました。

議長は大分県のＰＴＡ会長の、穴見さんにより進められました。最初に地区ごとに常任委員の選出があり、東北地区は山形県が輪番でしたので、スムーズに決まり、各地区の常任委員により会長・副会長の選任が行われ、山本順三会長が再任されました。続いて事業報告。決算報告。監査報告があり原案通り承認されました。次に、今年度の事業計画・予算の審議に入り、子どもの成長にとって最も大切な「親との愛着形成」「自然の中での遊びや園庭活動の価値」「長時間保育の光と影」等の大切な課題に対して「こどもまんなか」の子育て支援の充実を求めてまいりますとの執行部の提案を承認して総会は閉会しました。

令和七年度 役員名簿

会長　渡辺勝幸　六郷P
副会長　伏谷修一(体)八幡花園P
〃　渡辺重益(研)やまもとP
〃　佐藤由理(体)成田中央P
〃（事務局長兼任）横澤行夫(広)お人形社第二T
監事　小野暢彦(体)利府T
〃　○毛利奈緒美(広)小さき花P
〃　後藤麻衣子(体)ふじP
常任委員長　高橋克也　ドリームP
常任委員◎大場和晃(体)八幡花園P
〃　菅原彰(体)すがわらT
〃　佐々木拓真(広)ニールワールT
〃　坂上靖惠(広)愛耕T
〃　片岡大助(広)さくらT
〃　中村晶子(広)小鳩T
〃　石堂三美(広)法山寺T
〃　根来興宣(体)多賀城高崎T
〃　鈴木ふじえ(体)ふじT
〃　○尾本真澄(体)成田中央T
〃　○阿部ふき子(研)いちょうの実T
委員　佐竹恭子(広)小さき花T
〃　佐々木奈々(体)おおたまやP
〃　鎌田文惠(体)おおたまやT
〃　◎松田彩絵(広)第二向陽台P
〃　越前智也(広)第二向陽台T
〃　佐々木愛(広)いずみ松陵P
〃　三塚あきみ(広)いずみ松陵T
〃　斉藤絵未理(広)愛耕P
〃　太田美雪(広)さくらP
〃　及川良宣(広)小鳩P
〃　佐藤京子(広)法山寺P
〃　櫻井瑞希(体)多賀城高崎P
〃　◎伊深まなみ(研)いちょうの実P
顧問　中野正志　お人形社第二P
〃　中沢幸男　鳳学院女子附P
〃　渡美巖　矢本はなぶさP
〃　中島源陽　いわでやまP
〃　深谷晃祐　多賀城高崎P
〃　佐々木幸士　富沢P
◎各部会部長　○各部会副部長
(研)＝研修部　(体)＝体育部　(広)＝広報部

会員の声

未来へ奏でるリズム

第二向陽台幼稚園(P)　松田　彩絵

東京エレクトロンホール宮城で毎年行われている本園の「音楽リズム発表会」。

子どもたちは、日々の音楽活動で育んできた感性を、いきいきとした表情と豊かな表現で舞台にのせます。

大きな会場での演奏は、園児にとって緊張をともなう特別な体験。それでも、心をひとつにして臨む中で、自信と思いやりが育まれていきます。音が揺れることがあっても、「みんなと一緒に表現したい」という気持ちこそが何よりの宝物。その姿を見守る中で、共に活動する喜びを経験させたいと願う、未来へつながる行事です。

本番では、先生方が優しい声と笑顔で、一人ひとりの個性を包み込むようにまとめてくださいます。私たち父母の会も、舞台袖でスモックを整えたり、楽器を受け渡したりとそっと支えるお手伝いをしています。緊張の中にも「がんばるぞ！」と小さな意気込みをのぞかせる子どもたち。普段は見せない、ちょっぴり大人びたその表情を間近で見られるのは、役員だからこそ味わえる特別なひとときです。

そんな舞台の裏には、日常の中で少しずつ育ってきた力があります。園の音楽活動には、子どもたちが楽しんで取り組めるよう、先生たちが大切にしてきた工夫が込められているのです。

鍵盤ハーモニカの活動では、「ドは赤、レは黄色、ミは緑」など、音に色のカードを対応させることで、子どもたちは視覚的に音の位置を覚えていきます。さらに、「赤におとーさん、みんなでどうぞ！」などの魔法のかけ声に導かれ、自然と指の動きやリズム感も身についていきます。この工夫のおかげで、年長さんは『歌えバンバン』も演奏できるように！

年中さんは、タンバリンにも挑戦。「ピー・ピッ！ワン・トゥー・スリー・フォー！」小さな腕を大きく振り上げ、「お空（そ～ら）！お空（そ～ら）！ばいばいばいばい！」掛け声に合わせて響く音は、まるで子どもたちの鼓動のよう。耳を澄ますと、実は少しずつバラバラな音。でも、その不揃いなリズムこそが可愛らしく、それぞれが輝いています。

こうして集まった音が重なり合う一体感は、客席までやさしく届き、私たちの手拍子と重なります。

幼い頃にお友達と紡いだリズムは、きっと人生の礎となり、やがて一人ひとりが奏でる温かなメロディーへと成長することでしょう。そんな第四十四回音楽リズム発表会は来月十月に開催されます。楽しみ！

気仙沼で伝える「食育」

愛耕幼稚園(P)　斉藤　絵未理

「スローフード」という言葉をご存じでしょうか？

私が住む、気仙沼市では今から十九年前の平成十八年に「気仙沼スローフード都市宣言」をしています。その宣言の中には「子どもたちを含め、人々に、食の楽しさや味覚の大切さ、真の心の豊かさを伝えていきます」という要項があります。

当園では年長時にテーマを決めて、一年間、研究学習を行っています。毎年、様々なテーマで行っておりますが、昨年は「食育」がテーマでした。園児が米やサツマイモなどを育てたり、手作りの味噌を仕込んだりと保護者も驚くような内容を行っています。市内事業者にも協力をいただき料理教室（出汁を引いた汁物作りと干物作り）を行いました。

気仙沼港へは世界三大漁場の一つである三陸沖の漁場から毎日旬の魚介類が水揚げされます。その為、年を通して様々な種類の漁船が港に出入りしています。今年、園児達は大型遠洋マグロ船の出港式（こちらでは出船おくりといいます）にも参加しました。

毎日三度、食事の時間があります。日々に追われていると毎度、丁寧に摂ることも難しいかもしれません。可能な限り、家族にとっての食事の楽しさや食卓の先にある環境の豊かさを考える時間にしたいものです。気仙沼の恵みにふれたこの経験が、「食べることは生きること」という実感となって、子どもたちの中に静かに根づいていくことを願っています。

――◇――◇――

行事から見える子どもの成長

さくら幼稚園(P)　太田　美雪

少子化が進み、働き方や社会の流れとともに、子育てを取り巻く環境も大きく変化しています。

そんな中でも、園の先生方が子どもたち一人ひとりを大切に、あたたかく見守ってくださっていることに、私たち保護者は日々感謝の気持ちでいっぱいです。

保護者会としても、園の方針や行事に寄り添いながら、子どもたちが毎日を安心して、楽しく過ごせるように協力していけたらと思っています。

園の活動に参加させていただけることは、家庭とはまた違った子どもたちの姿を感じられる貴重な機会でもあり、私たちにとっても大きな喜びです。

夏休み前に予定されている「さんさん元気夏祭り」も、子どもたちにとって楽しい思い出になるよう、保護者会としても一緒に盛り上げ、楽しみながら参加させていただければうれしく思います。

こうした経験のひとつひとつが、子どもたちの心に残り、成長の大切な糧となっていくことを願っています。

令和七年度 行事予定

- **九月五日(金)**　バレーボール代表者会
- **九月八日(月)**　第二回役員会
- **十月二十一日(火)**　第四十八回宮私幼ＰＴＡ親善バレーボール大会（セキスイハイムスーパーアリーナ）
- **十一月二十五日(火)**　宮私幼教育振興大会並びにＰＴＡ研修大会　東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館）大ホール
- **期日未定**　知事陳情・県議会議長陳情